

令和3年度 第9号

学校だより 1月

自分大好き みんな大好き ひとみ かがやく 西が岡の子

横浜市立西が岡小学校 泉区西が岡3-12-11 Tel814-3603

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishigaoka>

凧揚げと子育て?!

学校長 佐藤 裕二

新しい年が始まりました。令和4年のスタートにあたり、家族で今年の抱負などを話題にしたご家庭も多かったのではないのでしょうか。今年も、西が岡小学校の児童一人ひとりの健やかな成長のために、職員一同しっかりと支援してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、正月の伝統的な遊びにはいろいろありますが、私が好きだった凧揚げのコツを紹介します。凧は糸目を上手に調整することで、前方から当たる風が凧の下側を抜けて後方へ流れるような構造になっており、その際にできる揚力によって揚がっていきます。つまり、上下正しい向きの凧に風が当たれば、まっすぐ上に揚がっていきます。しかし、凧が斜めになった状態で風が当たるとクルクルと回ってしまいますし、逆さまの向きの状態に風が当たると真っすぐ落ちてしまいます。また、糸を引っ張ることで風が当たる状態と同じ状態を作り出すことができるので、凧が上下正しい向きの時に糸を引っ張ると、スーッと高く揚がっていきます。逆に、凧が正しい向きになっていない場合に糸を引っ張ると傾いた頭の方へ流れます。その場合の対処法としては、糸をどんどん伸ばしてしばらく凧を風に乗せてしまうことです。もともと凧は足をつけるなどして下の方が重くなっていますから、風に乗って流された凧は、次第に正しい向きに戻ろうとします。正しい向きになったところで一気に糸を引くと、またスーッと上へ揚がっていくのです。



ある時ふと、思春期の子どもの子育てと凧揚げが似ていると思ったことがあります。子どもが困ったり迷ったりしている時に、無理やり手綱を引くと、さらに深みにはまってしまいがちです。しかしそんな時に手綱を緩めて見守っていると、やがて少しずつ自らの力で正しい向きに戻ろうとします。そして自分で向きを修正できたときに改めてしっかりと応援してあげることで、望ましい方向へ一気に動き出すことがあります。

そのためには、悩んでも自らの力で体勢を整えようとする力が大切だと考えています。多感な思春期を迎える前に、自分の頭で考え、判断して自らを調整しようとする、そんな力を育てていきたいものです。